

(1) 左から氷川大橋。 (2) 南氷川橋。

奥多摩溪谷

東京府
土木部

1. 概 説

武蔵野を一直線に貫通する中央線に依り東京を西に去る約一時間にして立川驛に達す。此處より私鐵青梅鐵道に乗換へ右折し陸軍立川飛行場を右に見て更に武蔵野を走る事北西に約一時間にして終點御嶽驛に着す。

此の邊は地勢漸く高まり近時都人士に景勝を稱へらるゝ所謂奥多摩景勝地に入りしものにして群山嶺を連ね多摩川の溪谷深く兩岸巨岩列立し奇岩を縫つて碧水奔流す。此處より西走する指定府縣道第三號青梅甲府線を乗合自動車にて多摩川に沿ひ上る事約30分にして氷川町に達す。多摩川の溪谷は愈々迫りて奇

景倍々勝る。

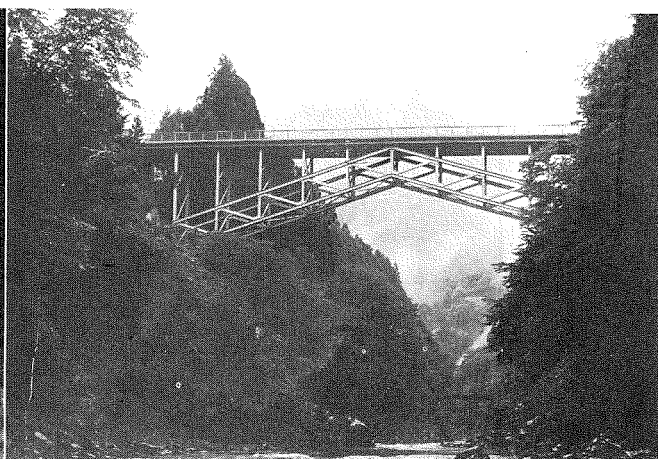
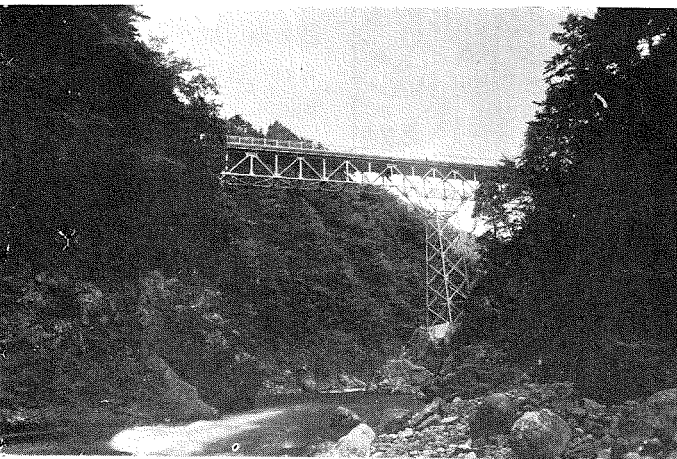
途は更に延び大東京市の水源池となる小河内貯水池建設區域を過ぎ山梨縣丹波山村に入り奥多摩連峰を縫ひ大菩薩峠を左に仰ぎ甲府に入る。

此の氷川町より奥地に向ひ 1.5 軒の間羊腸たる坂路を改修し平坦なる直線道路を築造し之が多摩川の支流日原川並に多摩川の本流を渡る地點に氷川大橋、南氷川橋、辨天橋、笹平橋の四橋を新設した。

2. 氷川大橋

氷川町の入口に在り多摩川支流と本流との合流點に近く支流日原川に架設せられた橋梁で昭和七年七月に起工し同八年七月に竣功した。

本橋は架橋地の岩盤、附近翠巒溪流との對



(3) 辨天橋と (4) 右が笹平橋。

橋梁概況

橋梁課

照の妙を考慮し且つ失業救済事業として多数失業労働者を使用し得る様鉄筋混凝土拱橋を選択した。

而も水面より30米の高所に在り河底より支保構を築造する事の困難不経済を避け「メラン式」とし支保構を廢した

先づ鐵骨を二絞式拱橋として索條に依り架設し、架設終了の後鉸の作用を除き無鉸拱とし鉸鉸した。鋼構より枠型を釣り下げ拱環混凝土を施工したが、拱環混凝土打に先立つて豫め拱環混凝土重量に相當する荷重を全徑間に分布積載し、先づ所定の撓度を現出せしめ、拱環を定形に固定せしめた後荷重を除去しつゝ之と同重量の混凝土を施行し、以て混凝土施行中に拱環に生ずる撓度の變化及變形に對する影響を小にした。

施行の安全、容易、迅速を計る爲め拱環の

外に柱、横桁及縦桁にも鋼材を使用した。

西岸高低の差大なる爲め橋梁に35分の1の片勾配を附し、橋面はグラノリシック混凝土鋪装を施工した。

3. 南氷川橋

氷川大橋を渡り氷川町の目貫の場所を通過し舊道の峻坂、俗稱「オハグロ坂」を右に見て多摩川を右岸に渡る箇所に架設せられた橋梁で、昭和七年七月に着工し同八年五月に竣工した。

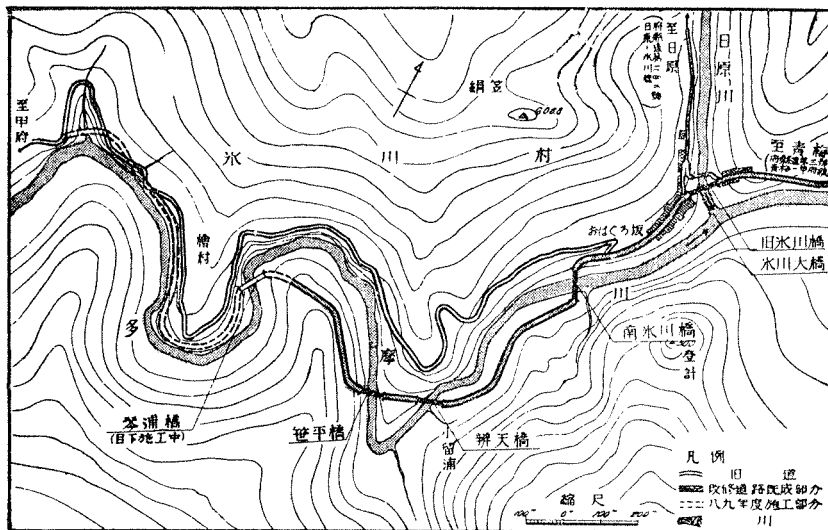
型式は「スバンドレル・ブレースド・アーチ」とし橋幅に比し橋高大なるため柱に勾配を附し下方を擴げ安定を良くした、架設は索條を通し之より部材を吊り下げて施工し、橋面は「モルタル」鋪装を施工した。

4. 辨天橋

南氷川橋より右岸に沿ひ坦々たる改修道路を進む事500米にして、更に多摩川を左岸に渡る位置に架設せられた橋梁で、昭和七年七月に着工し同八年五月に竣工した。

型式は「ゲルバー式ワーレン構橋」とし三徑間より成り兩側徑間を礎着構とし中央徑間を吊構とした。

橋脚は高さ大なる爲め鋼構橋脚とし兩側に



(5) 奥多摩橋梁見取圖

勾配を附して安定ならしめた。

架設は構造上極めて簡単にして先づ橋脚を建て次に側徑間を架渡し、側徑間を利用し突桁部を架設し吊構部は索條より吊り架設した。橋面には「モルタル」舗装を施工した。

5. 笹平橋

辨天橋を渡り直線道路を進む事100米餘に

の片勾配を附し取付道路を緩にした。

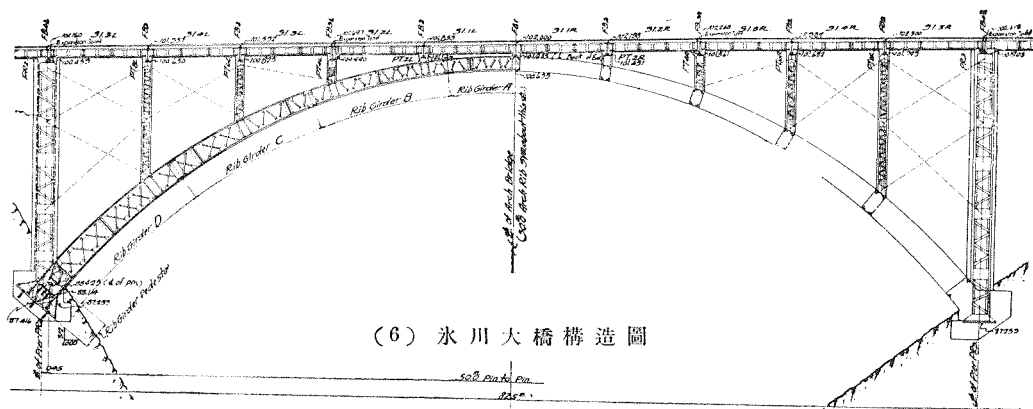
本橋を渡り更に進む事410米の地に目下琴浦橋を施行中である。本橋は型式は「ブレースド・リップ・アーチ」で、本橋の完成により奥多摩の五大橋相接し溪谷に懸架する状は將に一大偉觀にして一段と風致を添へ、小河内貯水池の完成と相俟つて都人士の行樂の地とならん。(終)

工 事 概 要

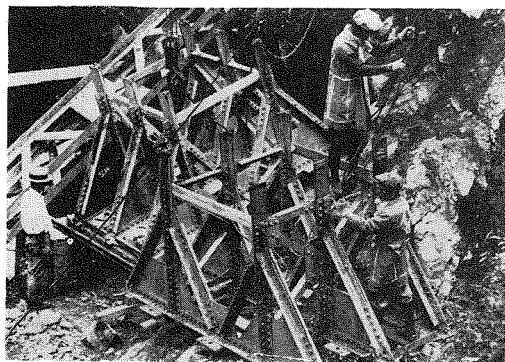
橋名	氷川大橋	南水川橋	辨天橋	笹平橋	
路線名	府縣道第三號 青梅甲府線	同	同	同	
位置	東京府西多摩郡 氷川村	同	同	同	
河川名	日原川	多摩川	同	同	
橋種	鐵骨混凝土 側型拱橋	腔側構拱橋	ゲルバー式 鋼構橋	直弦鋼構拱橋	
荷重	三等橋	同	同	同	
徑間(m)	中央拱徑間 1@5.0 側徑間 4@7.0	中央徑間 1@6.0 側徑間 2@8.0	中央徑間 1@3.0 側徑間 2@1.5	中央徑間 1@4.5 側徑間 2@4.5	
橋長(m)	83.9	76.35	66.40	54.26	
有効幅員(m)	6.3	4.5	4.5	4.5	
橋面積(m ²)	528.57	343.58	298.8	244.17	
鋼材(t)	114.06	112.91	92.07	79.42	
同上(t/m ²)	0.216	0.329	0.308	0.325	
總工費(圓)	37,714	21,534	24,213	21,871	
單價(圓/m ²)	71.4	62.7	81.0	89.6	
工期	着手 7-7-15 竣工 8-7-31	7-7-15 8-5-15	7-7-15 8-5-31	7-7-15 8-7-31	
請負人	上下部 鐵部	橋本工業株式會社 東京鐵骨橋梁製作所	奥平周作 奥平造船所	木村重治 東京鐵骨橋梁製作所	鳥崎軍治 東京鐵骨橋梁製作所

して更に右岸に渡る地に架設せられた橋梁で昭和七年七月に着工し同八年七月に竣工した。

型式は直弦鋼構拱橋とし、架設は前三橋同様索條により部材を吊下り施行した。橋面はモルタル舗装とした。本橋は兩岸土地の高低差大なる爲め40分の1



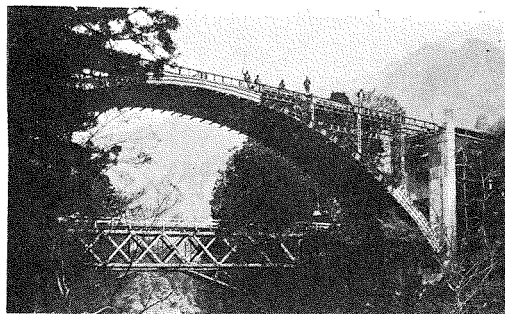
(6) 氷川大橋構造圖



(7) 氷川大橋構鋼鐵杓据付狀況。

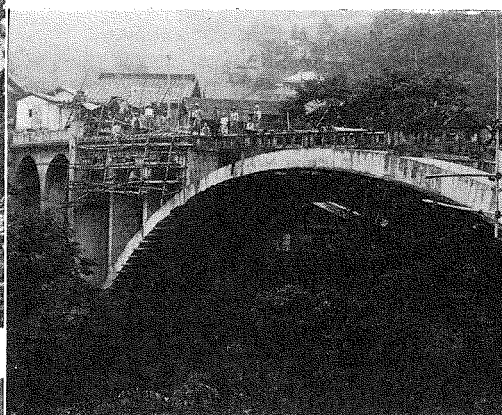


(8) 氷川大橋鋼構架設狀況。

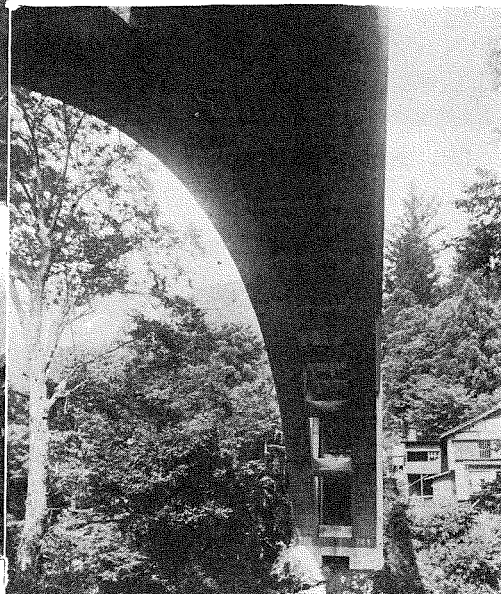


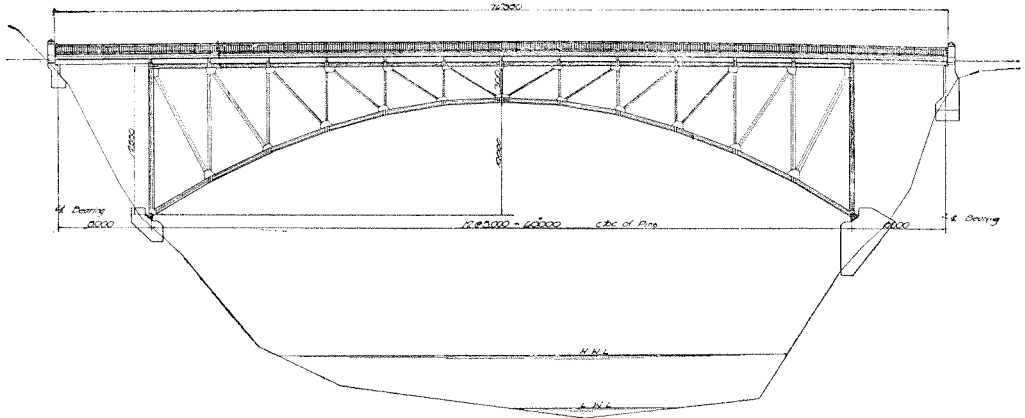
(9) 氷川大橋拱環混凝土施工狀況。

(10) 氷川大橋床版混凝土施工狀況。



(11) 氷川大橋拱環仰望の偉觀。

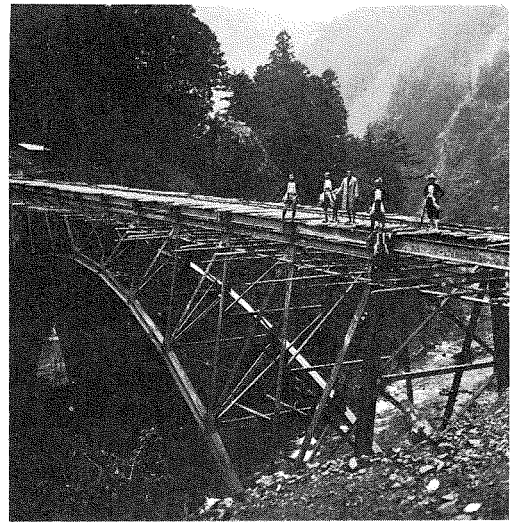




(12) 南水川橋一般圖。

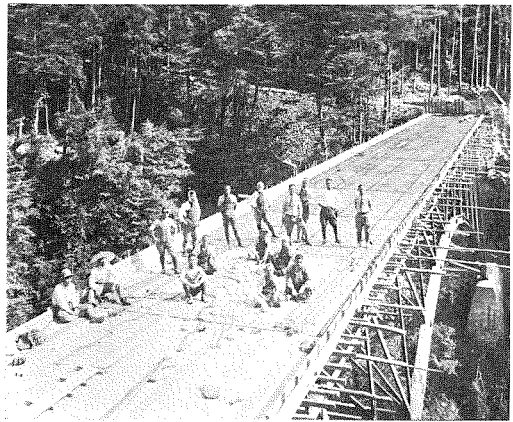
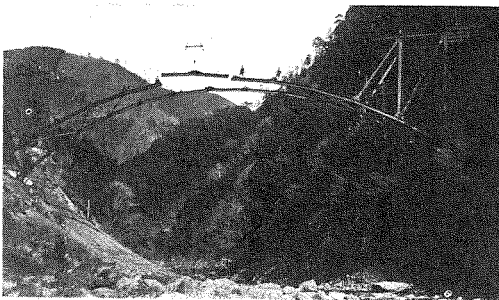


(13) 南水川橋々臺及橋脚工事。

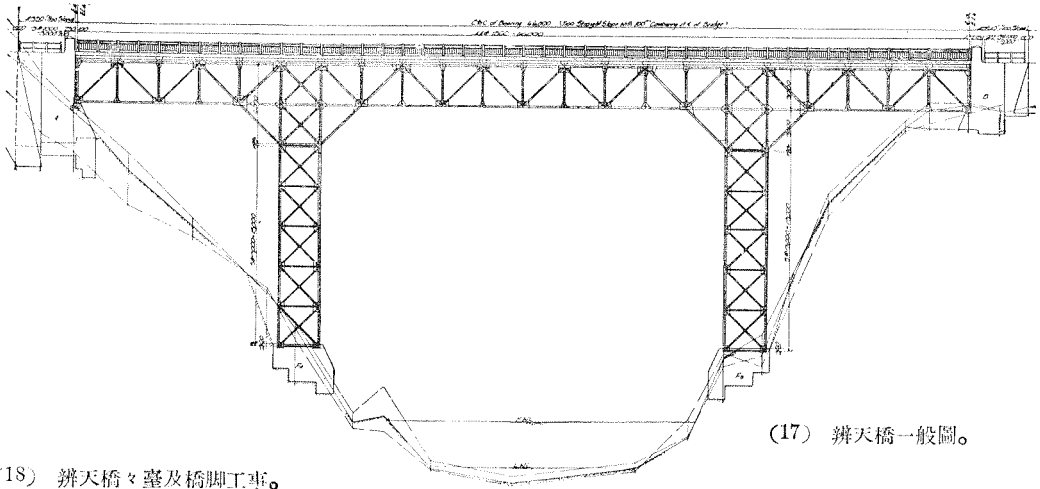


(15) 南水川橋鋼構架設狀況。

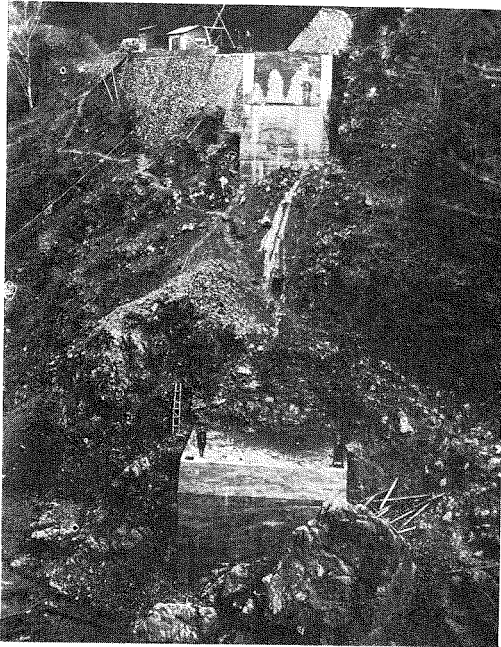
(14) 南水川橋鋼構架設狀況。



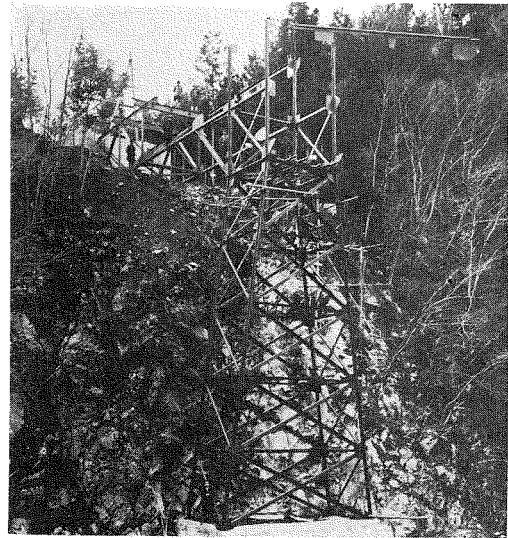
(16) 南水川橋床版鐵筋組立狀況。



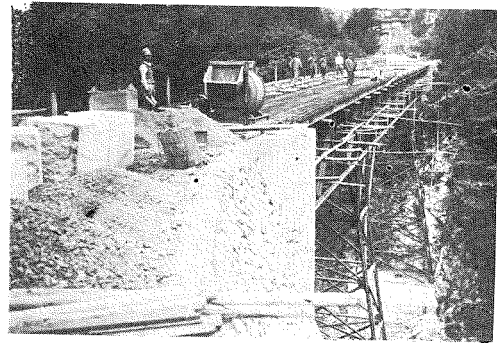
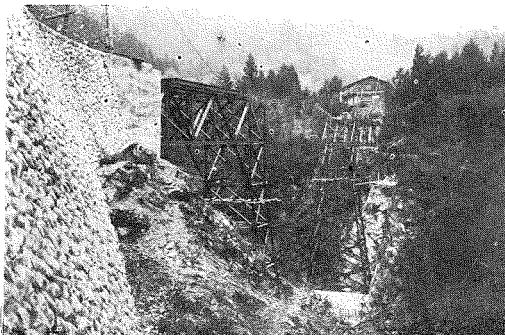
(18) 辨天橋之臺及橋脚工事。



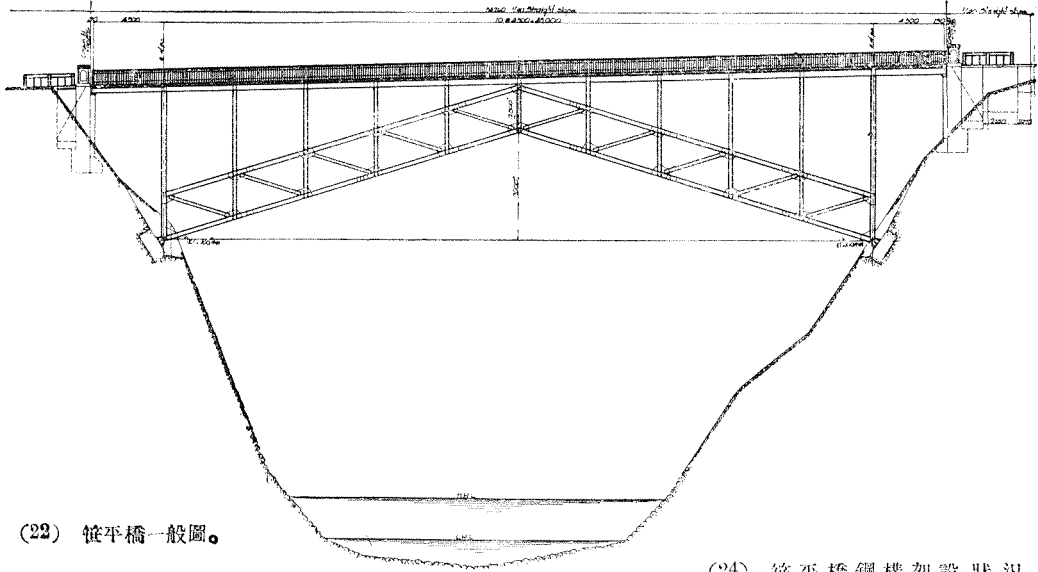
(19) 辨天橋鋼樑架設狀況。



(20) 辨天橋鋼樑架設狀況。



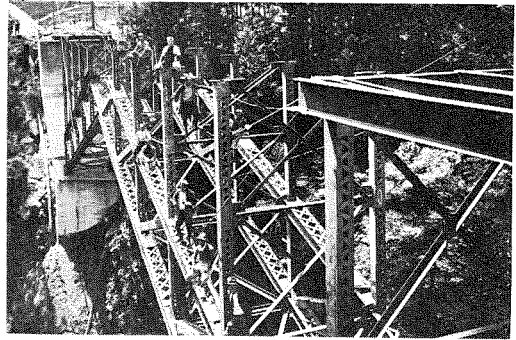
(21) 辨天橋床版鐵筋組立狀況。



(22) 笹平橋一般圖。

(24) 笹平橋鋼構架設狀況。

(23) 笹平橋々臺築造狀況。



(25) 笹平橋鋼構架設狀況。

